

名古屋市内の河川に生息する淡水性十脚目甲殻類

中嶋 清徳

名古屋港水族館（公益財団法人名古屋みなと振興財団） 〒455-0033 愛知県名古屋市港区港町1-3

Freshwater decapod crustaceans inhabiting rivers in Nagoya City

Kiyonori NAKAJIMA

Port of Nagoya Public Aquarium, Nagoya Port Foundation, 1-3 Minatomachi, Minato-ku, Nagoya, Aichi 455-0033, Japan

Correspondence:

Kiyonori NAKAJIMA E-mail: k-nakajima@nagoyaminato.or.jp

要旨

2022年から2024年に名古屋市内4河川の4地点において淡水性十脚目甲殻類を調査した結果、コエビ下目5種、ザリガニ下目1種、短尾下目1種の計7種が記録された。このうちミナミテナガエビ *Macrobrachium formosense* については愛知県内では2例目、名古屋市内からは初めての記録である。

Freshwater decapod crustaceans were surveyed at four locations across four rivers in Nagoya City from 2022 to 2024. A total of seven species were identified in this study, including five species of carideans, one astacidean, and one brachyuran. Of these, this is the second record of *Macrobrachium formosense* in Aichi Prefecture and the first record in Nagoya City.

序文

名古屋市内の河川に生息する淡水性十脚目甲殻類についての記録は愛知県環境審議会（2013）のほかに、名古屋市環境科学調査センターによって1970年代後半から継続されている水棲生物全般を対象とした定点調査の記録がある（鎌田ほか，1998；岡村ほか，2012；大畑ほか，2025など）。さらに外来種を中心としたものとして寺本（2015），斉藤ほか（2017），今井ほか（2020）などがある。今回は，成体の主な生息場が淡水域の淡水性十脚目甲殻類を調査対象とし，先行調査の補填と名古屋市レッドデータブックの基礎資料とするため市内河川4水系4地点において調査を行った。採集された種に関する知見や生息状況などについて報告する。

材料および方法

2022年11月から2024年5月までの期間に，名古屋市港区戸田川緑地付近の戸田川（日光川水系）（St.1: 35°6'51"N 136°48'37"E），西区枇杷島橋付近の庄内川（St.2: 35°11'30"N 136°52'01"E），瑞穂区山下橋付近の山崎川（St.3: 35°07'13"N 136°56'27"E），天白区野中橋付近の天白川（St.4: 35°6'47"N 136°57'16"E）で採集を行った（図1）。調査時点では戸田川のみ日光川との合流地点および日光川の河口に排水機場が設けられていたが，他の調査地点は河口までの間に生物の移動の障害となる構造物はなかった。各地点においては手網を用いて45分程度の採集を1人で行った。採集後その場で同定できた個体は採集地点に放流したが，その一部や現地で同定できなかった個体を5-10%中性ホルマリンまたは80%エタノールにて固定し標本とした。標本はノギスを用いて

10分の1 mmの精度で、エビ類は甲長（CL：眼窩後縁から頭胸甲後縁までを計測）、短尾類は最大甲長（CL）と最大甲幅（CW）を測定した。種の同定は林（2007）や豊田ほか（2019）などを参考にした。分類や学名などについてはWoRMS Editorial Board（2024）に準拠した。標本は、なごや生物多様性センターにて保管されている。

結果

各調査地点において、十脚目甲殻類のコエビ下目5種、ザリガニ下目1種、短尾下目1種の計7種が確認された（表

1、図2）。各種の分布状況および本調査で確認された調査地点について、以下に報告する。

十脚目（エビ目） Decapoda

抱卵亜目 Pleocyemata

コエビ下目 Caridea

ヌマエビ科 Atyidae

1. ミゾレヌマエビ（図2-1）

Caridina leucosticta Stimpson, 1860

両側回遊型の本種は本州中部以南、四国、九州、南西諸島、韓国に広く分布する（林，2007）。名古屋市内では岡村（2012）、愛知県内では白金・浜崎（2018）、浅香ほか（2019）、浅香（2020）、尾山ほか（2021）など各地から報告がある。本調査ではSt.2、St.3、St.4において確認された（表1）。名古屋市レッドデータブック2025において準絶滅危惧（NT）に評価されている（名古屋市、印刷中）。

2. カワリヌマエビ類（図2-2）

Neocaridina spp.

在来のみナミヌマエビ *Neocaridina denticulata*（De Haan, 1844）と形態的に酷似し、外来種と考えられるカワリヌマエビ類 *Neocaridina* spp. は近年全国各地に分布域を広げ問題となっている（西野・丹羽，2004；吉郷，2011；Fujita et al., 2011；横浜市環境科学研究所，2012；長谷川ほか，2015；金澤，2015；Mitsugi et al., 2017；西野，2017；白金・浜崎，2018；永井・今井，2021；Kakui and Komai, 2022；Onuki and Fuke, 2022）。名古屋市内においても河川や水路、ため池などにて2000年以降

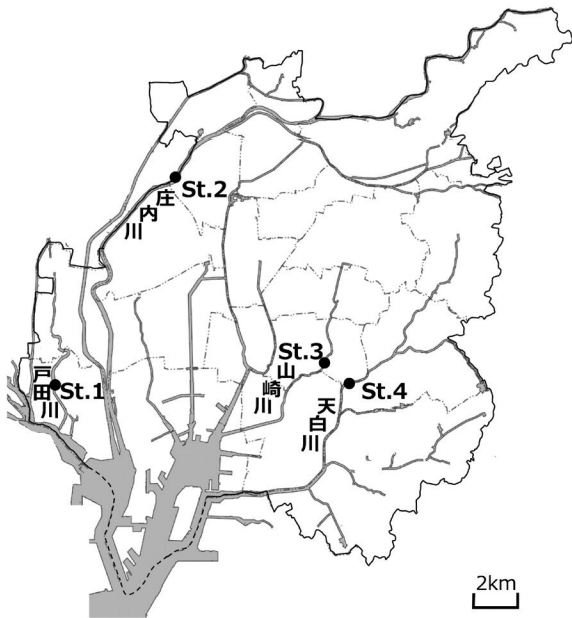


図1. 名古屋市内の河川における調査地点。
本図は地理院地図（国土地理院）を加工して作成

表1. 2022～2024年に名古屋市内の河川で確認された淡水性十脚目甲殻類。

No.	出現種	調査地点	戸田川	庄内川	山崎川	天白川	
		調査年月日	St.1	St.2	St.3	St.4	
1	ミゾレヌマエビ <i>Caridina leucosticta</i>	2022/11/21		●	●		●
2	カワリヌマエビ属 spp. <i>Neocaridina</i> spp.	2022/11/11		●	●	●	●
3	ミナミテナガエビ <i>Macrobrachium formosense</i>			●			
4	テナガエビ <i>Macrobrachium nipponense</i>		●	●	●	●	●
5	スジエビ <i>Palaemon paucidens</i>		●			●	
6	アメリカザリガニ <i>Procambarus clarkii</i>					●	
7	モクズガニ <i>Eriocheir japonica</i>			●	●	●	●

から確認され、その後分布域を広げていることが報告されている（鎌田ほか，2004；岡村ほか，2012；斉藤ほか，2017；大畑ほか，2022）。本調査ではSt.2，St.3，St.4にて採集された（表1）。

テナガエビ科 Palaemonidae

3. ミナミテナガエビ（図2-3）

Macrobrachium formosense Spence Bate, 1868

両側回遊型で千葉県（太平洋側）・福井県（日本海側）から南西諸島，小笠原諸島，韓国，台湾，中国に分布する（豊田ほか，2019）。形態がよく似るテナガエビとは雌雄や体長に関係なく，本種の第3歩脚指節が短く頑丈であることから区別できる（林，2000a）。今回の調査ではSt.2から1個体採集された（表1）。本種の標本に基づく記録は愛知県内からは渥美半島周辺河川からの記録のみであり（尾山ほか，2021），名古屋市内においては確認できなかった。

4. テナガエビ（図2-4）

Macrobrachium nipponense (De Haan, 1849)

本州，四国，九州，琉球諸島の河川や湖沼に生息し，国外では韓国，台湾，中国に分布する（林，2000b）。名古屋市を含む愛知県内の河川においても広く生息が確認されている（岡村，2012；愛知県環境審議会，2013）。両側回遊型や陸封型など幅広い水域に適応する多様な繁殖生態を持つ個体群が知られているが（林，2000a；益子，2011；豊田ほか，2019），本調査で採集された個体を含め県内に生息する本種の繁殖生態については不明である。本調査ではすべての地点において全調査日で確認された（表1）。

5. スジエビ（図2-5）

Palaemon paucidens De Haan, 1844

シベリア南東部，サハリンから朝鮮半島，中国，日本列島にいたる極東に広く分布する（張ほか，2018a）。名古屋市を含む愛知県内の河川においても広く生息が確認されている（岡村，2012；愛知県環境審議会，2013）。国内には隠蔽種が複数いることが知られ，北海道から九州の広範囲には，河川および多様な内水面に分布するAタイプと河川のみに分布し両側回遊型のBタイプの2集

団が報告されているが（張ほか，2018a），現状では形態によるタイプ判別が可能ではないとされているため（張ほか，2018b），今回の調査では区別していない。本調査ではSt.1およびSt.4において確認された（表1）。

ザリガニ下目 Astacidea

アメリカザリガニ科 Cambaridae

6. アメリカザリガニ

Procambarus clarkii (Girard, 1852)

北アメリカ原産の外来種で，日本の侵略的外来種ワースト100にも選定され（村上・鷲谷，2002），現在では北海道から沖縄まで分布域を広げている（豊田ほか，2019）。2023年6月1日より条件付特定外来生物に指定された（環境省，2023）。愛知県内の平野部淡水域で広く確認され（中嶋・斉藤，2021），名古屋市内の調査では調査地点の約7割で生息が確認されている（寺本，2015）。本調査ではSt.4にて採集された（表1）。

短尾下目 Brachyura

モクズガニ科 Varunidae

7. モクズガニ（図2-6）

Eriocheir japonica (De Haan, 1835)

北海道から南西諸島，サハリンを含むロシア極東域，中国，韓国に分布する（豊田ほか，2019）。本種の幼生は海水域で成長し，メガロパ幼生から稚ガニにかけて川を遡上し，河川の上流から下流で成長後，交尾・産卵のため汽水域や海水域に向かって移動する降河回遊種とされる（小林，1999）。名古屋市を含む愛知県内の河川から広く生息が確認され（鎌田ほか，1998；愛知県環境審議会，2013），名古屋港ガーデンふ頭では抱卵個体が確認されている（中嶋・春日井，2022）。名古屋市レッドデータブック2025において準絶滅危惧（NT）に評価されている（名古屋市，印刷中）。本調査ではSt.2，St.3，St.4にて採集された（表1）。

考察

ミナミテナガエビは名古屋市内において初めて確認されたが，St.2で1個体が採集されたのみであり，現時点では市内での生息数は少ないと思われる。伊勢湾内の河川からは三重県の雲出川と宮川から記録がある（国土交

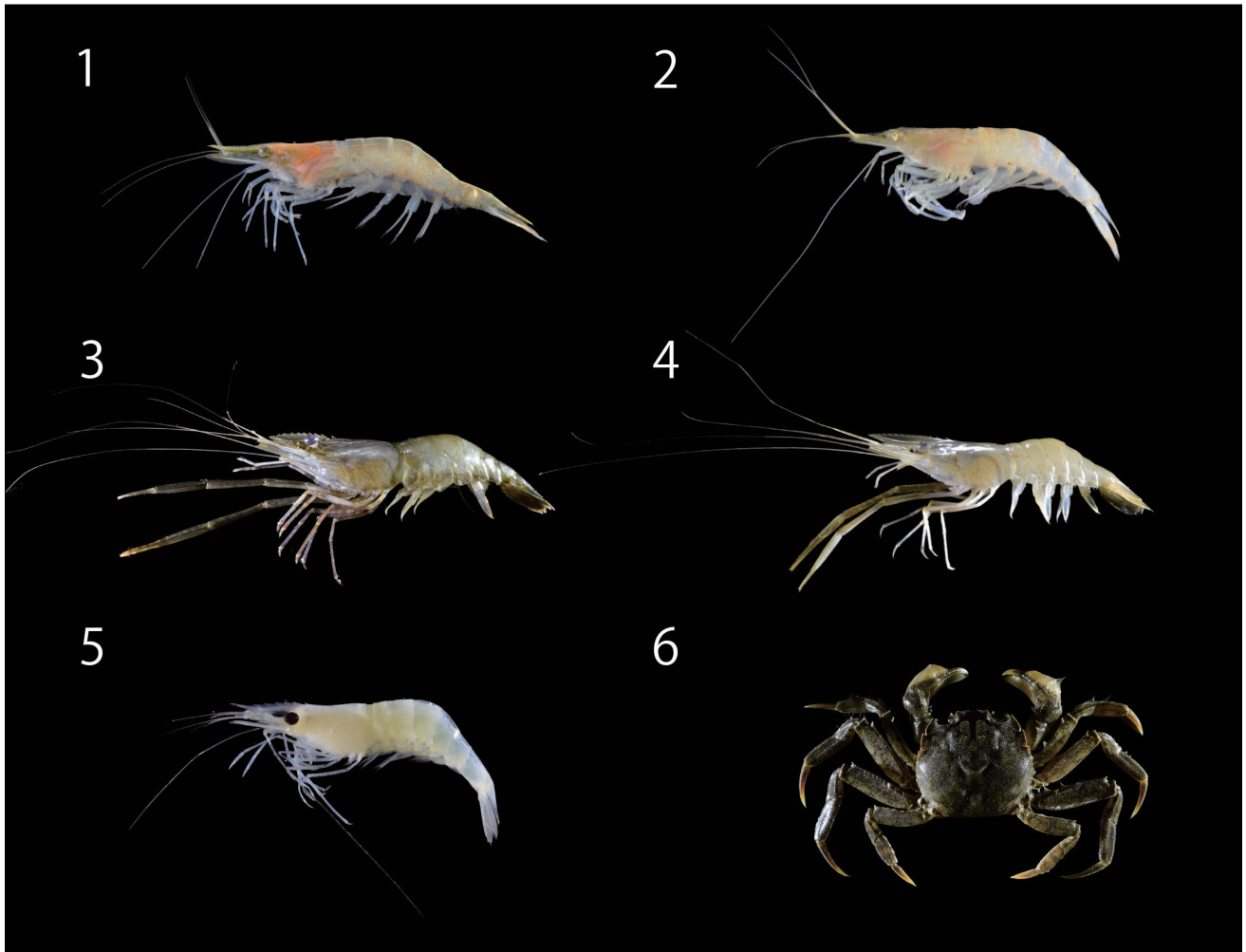


図2. 名古屋市内の河川で採集された淡水性十脚目甲殻類.

1. ミゾレヌマエビ *Caridina leucosticte* : NBC-CR000150, St.1 (庄内川), 2022年11月11日採集, CL: 5.6 mm.
2. カワリヌマエビ類 *Neocaridina* sp. : NBC-CR000151, St.4 (天白川), 2022年9月25日採集, CL: 3.8 mm.
3. ミナミテナガエビ *Macrobrachium formosense* : NBC-CR000152, St.1 (庄内川), 2022年11月11日採集, CL: 20.9 mm.
4. テナガエビ *Macrobrachium nipponense* : NBC-CR000153, St.1 (庄内川), 2022年11月11日採集, CL: 18.9 mm.
5. スジエビ *Palaemon paucidens* : NBC-CR000154, St.4 (天白川), 2022年9月25日採集, CL: 7.2 mm. ※ホルマリン液浸
6. モクズガニ *Eriocheir japonica* : NBC-CR000155, St.4 (天白川), 2024年5月29日採集, CL: 26.4 mm, CW: 31.2 mm.

通省, 2024). 今後も名古屋市内での出現状況を注視していきたい.

ミゾレヌマエビは、水際の流れのゆるやかな植生帯を主な生息場所とすることが知られている (中田ほか, 2011; Saito et.al., 2012; Yatsuya et al., 2013). 本調査においても、水際に植物のある限られた範囲で採集されることが多かった. さらに Saito et.al. (2012) は両側回遊型の本種が河川を遡上する上で連続する植生の重要性を指摘している. 加えて Yatsuya et al. (2013) は本種が生活史を完結する上で淡水から汽水、沿岸域まで幅広い生息地を

利用するため、各発達段階に対応する各生息地の保全を検討すると同時にこれらの生息地間のつながりを維持することが不可欠であることを指摘している. 特に河川改修が進む名古屋市内の小中河川において、ミゾレヌマエビなどの両側回遊種が安定的に生息できる環境の保全や創出を望みたい.

今回確認された種以外に、名古屋市内に生息する淡水性十脚目甲殻類としてサワガニ *Geothelphusa dehaani* (White, 1847) が確認されているが、生息可能な湧水域や河川は減少し、生息条件が著しく悪化しているため名古屋

屋市レッドデータブック 2025 において絶滅危惧 I A に評価されている（名古屋市，印刷中）。

スジエビの A・B タイプに関しては塩分耐性や幼生の浮遊期間に差異があり，交配実験において胚発生が進まないこと，河川内で両タイプが同所的にみられる場合もあることなどから別種と考えられている（張ほか，2018b）。近年，DNA 解析を用いて両タイプを簡便に判別できる手法が開発されている（張ほか，2018a）。しかし，これまでのところ名古屋市内のスジエビについてタイプ分けされた報告はない。今後は，名古屋市内に生息する両タイプの生息状況を明らかにすることが望まれる。

外来のカワリヌマエビ類については純淡水性の在来種と置き換わった例や，両側回遊型の在来エビ類への悪影響を危惧する報告がある（片山ほか，2017；Mitsugi et al., 2017）。また，カワリヌマエビ類は分類学的に不安定な面があり（Klotz et al., 2013；西野，2017；福家ほか，2021），形態学的な特徴のみに基づく同定は現在のところ非常に困難とされており（Kakui and Komai, 2022），カワリヌマエビ類の問題を複雑にしている。名古屋市内のカワリヌマエビ類は，分子系統解析の結果，現時点では外見による判別ができない 2 種が確認された。一方は国外からの外来種であり，もう一方も名古屋市内においては外来種である可能性が高いと考えられている（中嶋ほか，2025）。スジエビの A タイプについては韓国産ならびに琵琶湖産と同じハプロタイプが全国的に見られ，人為的な拡散が示唆されている（張ほか，2018b；七里ほか，2020）。さらに今回の調査では採集されなかったが，外来種のチュウゴクスジエビ *Palaemon sinensis* (Sollaud, 1911) が名古屋市内の 4 つの池で確認されており（今井ほか，2020），その後新たに確認された地点もある（大畑ほか，2025）。Imai and Oonuki (2014) によってスジエビとチュウゴクスジエビを頭胸甲上の縞模様の違いから簡便に見分ける方法が提示されていることから，今後確認される河川やため池などが増えることが予想される。これら国外または国内由来の外来種については継続的な調査を行い，分布状況を把握するとともに，意図的・非意図的な拡散が行われないよう広く啓発していくことが重要と思われる。

愛知県内の内湾に流入する河川では，これまでに名古屋市内では記録がないヒメヌマエビ *Caridina serratirostris*

De Man, 1892, トゲナシヌマエビ *Caridina typus* H. Milne Edwards, 1837, ヌマエビ *Paratya compressa* (De Haan, 1844), ヒラテテナガエビ *Macrobrachium japonicum* (De Haan, 1849) などの両側回遊型のエビ類が確認されている（白金・浜崎，2018；浅香ほか，2019；浅香，2020）。今後はこれらのエビ類や今回の調査で確認されたミナミテナガエビなどの在来エビ類が加入・定着し，都市河川の生物多様性が増すことを期待したい。

謝辞

なごや生物多様性センターの中村彰氏ならびに元職員の前谷弘英氏には現地調査など，宇地原永吉氏には生息情報や保管標本の確認，曾根啓子氏および加藤航大氏には標本登録に関して便宜を図っていただいた。名古屋市環境科学調査センターの岡村祐里子氏，大畑史江氏，福岡将之博士には生息情報や文献資料を提供いただいた。公益財団法人名古屋みなと振興財団の方々には標本測定や文献収集などについて協力していただいた。これらの方々に心から深く感謝申し上げる。

引用文献

- 愛知県環境審議会. 2013. 水生生物の保全に係る水質環境基準の水域類型の指定について（答申）. 資料編 2 水域類型の指定を行うために必要な基礎情報の概略. 愛知県，名古屋. 32pp.
- 浅香智也. 2020. 西尾市の小規模河川における甲殻類相. 碧南海浜水族館年報, 33: 19-21.
- 浅香智也・鈴木誉士・中川雅博. 2019. 愛知県豊川のエビ類相. 伊豆沼・内沼研究報告, 13: 57-65.
- 張 成年ほか. 2018a. スジエビ *Palaemon paucidens* の 2 タイプを判別するための DNA マーカーおよび日本における 2 タイプの分布. 日本水産学会誌, 84(4): 674-681.
- 張 成年・柳本 卓・丸山智朗・池田 実・松谷紀明・大貫貴清・今井 正. 2018b. スジエビ *Palaemon paucidens* の遺伝的分化. 日本生物地理学会報, 73: 1-16.
- Fujita, J., K. Nakayama, Y. Kai, M. Ueno, and Y. Yamashita. 2011. Comparison of genetic population structures between the landlocked shrimp, *Neocaridina denticulata denticulata*, and the amphidromous shrimp, *Caridina leucosticta*

- (Decapoda, Atyidae) as inferred from mitochondrial DNA sequences. In: A. Asakura (ed.), *New frontiers in crustacean biology*, pp.183-196. Brill, Leiden.
- 福家悠介・岩崎朝生・笹塚 諒・山本佑治. 2021. 五島列島福江島におけるミナミヌマエビの初記録. *Cancer*, 30: 63-71.
- 長谷川政智・池田 実・藤本泰文. 2015. 宮城県に侵入した淡水エビ: カワリヌマエビ属 *Neocaridina* spp. の分布拡大とヌカエビ *Paratya compressa improvisa* への影響. *伊豆沼・内沼研究報告*, 9: 47-60.
- 林 健一. 2000a. 日本産エビ類の分類と生態 (112) テナガエビ科・テナガエビ亜科-テナガエビ属①. *海洋と生物* 128, 22(3): 240-245.
- 林 健一. 2000b. 日本産エビ類の分類と生態 (114) テナガエビ科・テナガエビ亜科-テナガエビ属③. *海洋と生物* 130, 22(5): 468-472.
- 林 健一. 2007. 日本産エビ類の分類と生態 II. コエビ下目 (1). (ヒオドシエビ上科・イトアシエビ上科・ヌマエビ上科・サンゴエビ上科・オキエビ上科・イガグリエビ上科). 292 pp. 生物研究社, 東京.
- Imai, T. and T. Oonuki. 2014. Records of Chinese grass shrimp, *Palaemonetes sinensis* (Sollaud, 1911) from western Japan and simple differentiation method with native freshwater shrimp, *Palaemon paucidens* De Haan, 1844 using eye size and carapace color pattern. *BioInvasions records*, 3(3): 163-168.
- 今井 正・小笠原長護・斉藤英俊. 2020. 名古屋市における淡水エビの外来種チュウゴクスジエビの記録. *なごやの生物多様性*, 7: 71-75.
- Kakui, K. and T. Komai. 2022. First record of *Scutariella japonica* (Platyhelminthes: Rhabdocoela) from Hokkaido, Japan, and notes on its host shrimp *Neocaridina* sp. aff. *davidi* (Decapoda: Caridea: Atyidae). *Aquatic Animals*, AA2022-1.
- 鎌田敏幸・榊原 靖・村上哲生. 1998. 1997年度生物調査結果の概要 (底生動物, 魚類). *名古屋市環境科学研究所報*, 28: 75-80.
- 鎌田敏幸・鈴木直喜・榊原 靖. 2004. 市内河川に生息する底生動物, 魚類. *名古屋市環境科学研究所報*, 34: 49-56.
- 金澤 光. 2015. 埼玉県に侵入した外来甲殻類ヌマエビ科カワリヌマエビ属の現状について. *埼玉県環境科学国際センター報*, 15: 152-156.
- 環境省. 2023. 日本の外来種対策. <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/jokentsuki.html>. 2024 年 8 月 13 日確認
- 片山 敦・佐藤僚介・吉川朋子. 2017. 東日本鶴見川水系におけるカワリヌマエビ属とヌカエビの急激な分布の変化. *自然環境科学研究*, 30: 5-12.
- Klotz, W., F. W. Miesen, S. Hullen, and F. Herder. 2013. Two Asian fresh water shrimp species found in a thermally polluted stream system in North Rhine-Westphalia, Germany. *Aquatic Invasions*, 8(3): 333-339.
- 小林 哲. 1999. 通し回遊性甲殻類モクズガニ *Eriocheir japonica* (De Haan) の生態-回遊過程と河川環境と観察. *生物科学*, 51: 93-104.
- 国土交通省. 2024. 河川環境データベース: 河川水辺の国勢調査 中部地方河川版 底生動物 https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl_85_index.html. 2024 年 8 月 14 日確認
- 益子計夫. 2011. テナガエビ類はいかに進化してきたか. 川井唯史・中田和義 (編). *エビ・カニ・ザリガニ 淡水甲殻類の保全と生物学*, pp273-289. 生物研究社, 東京.
- Mistugi M., Y. Hisamoto, and H. Suzuki, 2017. An invasive freshwater shrimp of the genus *Neocaridina* Kubo, 1938 (Decapoda: Caridea: Atyidae) collected from Boso Peninsula, Tateyama City, Chiba Prefecture, eastern Japan. *Crustacean Research*, 46: 83-94.
- 村上興正・鷺谷いづみ. 2002. 日本の侵略的外来種ワースト100. 日本生態学会 (編集)・村上興正・鷺谷いづみ (監修). *外来種ハンドブック*, pp.362-363. 地人書館, 東京.
- 永井大翔・今井秀行. 2021. 沖縄島から初記録された侵略的外来淡水エビのカワリヌマエビ類. *日本生物地理学会会報*, 76: 51-57.
- 名古屋市. 印刷中. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2025-動物編-. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課編, 名古屋.
- 中嶋清徳・福岡将之・大畑史江・岡村祐里子. 2025. 名古屋

- 屋市内の河川に生息するカワリヌマエビ類. なごやの生物多様性, 12: 25-35.
- 中嶋清徳・春日井 隆. 2022. 伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭で採集された十脚目甲殻類. なごやの生物多様性, 9: 49-59.
- 中嶋清徳・斉藤知己. 2021. アメリカザリガニ. 愛知県環境調査センター編. 愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち2021, p.94. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.
- 中田和義・浜野龍夫・天野邦彦・三輪準二. 2011. 淡水性エビ類の生態と保全. 川井唯史・中田和義 (編). エビ・カニ・ザリガニ 淡水甲殻類の保全と生物学. pp.148-166. 生物研究社, 東京.
- 西野麻知子. 2017. 日本への外来カワリヌマエビ属 (*Neocaridina* spp.) の侵入とその分類学的課題. 地域自然史と保全, 39: 21-28.
- 西野麻知子・丹羽信彰. 2004. 新たに琵琶湖へ侵入したシナヌマエビ? (予報). 琵琶湖研究所ニュース オウミア, 80: 3.
- 大畑史江・岡村祐里子・福岡将之・榊原 靖. 2022. 市内ため池における2017年度および2021年度の生物調査結果概要 (底生動物, 魚類, 両生類). 名古屋市環境科学調査センター年報, 11: 48-53.
- 大畑史江・福岡将之・岡村祐里子・中嶋清徳. 2025. 名古屋市内の河川に生息する水生生物 (底生動物, 魚類) と生物学的水質評価. なごやの生物多様性, 12: 37-57.
- 岡村祐里子・西 史江・榊原 靖. 2012. 名古屋市内の河川に生息する水生生物 (底生生物, 魚類), 名古屋市環境科学調査センター年報, 1: 84-89.
- Onuki, K. and Y. Fuke. 2022. Rediscovery of a native freshwater shrimp, *Neocaridina denticulata*, and expansion of an invasive species in and around Lake Biwa, Japan: genetic and morphological approach. Conservation Genetics, 23(5): 967-980.
- 尾山大知・加藤柊也・丸山智朗・乾 直人. 2021. 渥美半島周辺の河川で採集された注目すべき水生動物 14 種. 水生動物, AA2021-2.
- 斉藤英俊・鬼村直生・米谷公宏・清水識裕・小林薫平・児玉敦也・河合幸一郎. 2017. 外来釣り餌動物チュウゴクスジエビ *Palaemon sinensis* の出現状況. 広島大学総合博物館研究報告, 9: 33-39.
- Saito, M., T. Yamashiro, T. Hamano, K. Nakata. 2012. Factors affecting distribution of freshwater shrimps and prawns in the Hiwasa River, southern central Japan. Crustacean Research, 41: 27-46.
- 七里浩志・柳本 卓・今井 正・張 成年. 2020. 関東地方におけるスジエビの遺伝的多様性. 水生動物, AA2020-5.
- 白金晶子・浜崎健児. 2018. 矢作川中流における淡水産エビ・カニ類の生息状況. 矢作川研究, 22: 45-50.
- 寺本匡寛. 2015. アメリカザリガニからみた名古屋市のため池・河川の現状－なごや生きもの一斉調査2014－. なごやの生物多様性, 2: 11-22.
- 豊田幸詞・関慎太郎・駒井智幸. 2019. 日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑. 緑書房, 東京. 339 pp.
- WoRMS Editorial Board. 2024. World Register of Marine Species. <http://www.marinespecies.org>. 2024年8月13日確認
- Yatsuya, M., M. Ueno, Y. Yamashita. 2013. Life history of the amphidromous shrimp *Caridina leucosticta* (Decapoda: Caridea: Atyidae) in the Isazu River, Japan. Journal of Crustacean Biology, 33(4): 488-502.
- 吉郷英範. 2011. 広島県瀬野川水域で採集されたカワリヌマエビ属の形態と釣り用エビ類に混入していた魚類. 比婆科学, 239: 9-29.
- 横浜市環境科学研究所. 2012. 横浜の川と海の生物 第13報・河川編, https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/shiryo/kawatoumi/d0016.files/0007_20200309.pdf. 2024年8月13日確認